

4月21日練習レポート

4. 21 (土)13:00～ 桜山キリストの教会

「帆を上げよ、高く」から空を翔る鳥の動感や速力を感じさせる「翼よ、お前の空を翔ろ」、スケルツォ風な曲の後に壮大なコーラル続く「春愁のサーカス」の復習

22期のWです。今週はちょっと忙しく、イベントも重なりレポートはベースS先輩にお任せですみません。
OB合唱団の練習日誌から

[真夏日の東京]

練習日誌(4月21日 東中野)の第一稿は自らボツにした。
それは、過酷な現実直視とあまりにもネガティブな表現に満ちていた為…。
反省の材料としては有益でも、表現手段として「歌」を選んだ者としては早々に忘れ去るべき心の重荷。
そう、私たちは9週間後「帆を上げ、翼を広げ、若者たちと音楽世界を飛翔」しなければならないのだ。

O氏は「島よ」を75名で演奏したいと明言、OBのさらなる参加に尽力せよとの要請有り。
そしてOB単独ステージに現役の参加もありうると……トホホ

最近「白鳥の歌」をリリースしたL・K氏のピアノは絶好調。
O氏の棒と、私たちの歌との乖離のはざまに優しく、そしてまた毅然と介入。
音楽を音楽たらしめるプロの技を披瀝した。

合同ステージの第2曲。
F先生の突然の他界、まさにその時のDグリーンの学生指揮者がこの曲の作詞者。
そうした背景を認識した時、歌詞の「魔法の指先」や「心感わず音楽」や「唐突に、僕らのもとを離れた」
などの言葉の数々がF先生へのオマージュと愛惜の念であったと、私たちの心にも突き刺さる。
DグリーンのDグリーンによるDグリーンの為のこの曲を、なぜ混声編曲してまで、私たちが歌うのか？
その答えが、複雑なリズムや厄介な音程の克服の先に見えてくる……かもしれない。
次週は第3曲のみの練習。はたして帆は高く上がるか？

2018.4.23 舞台写真家K氏の一周忌の日に記す ベースS



OB合唱団の練習日誌から

2018年4月14日

文京福祉センターで、「帆を上げよ、高く」の第2曲「春愁のサーカス」の練習でした。とにかくリズムに悪戦苦闘。
P練では繰り返しリズム読みしてやっと音取り、巨瀬さんがパートの音を弾いてくださりリズムと音がようやく結び
つきありさまです。ソプラノを聴く余裕がないまま終了してしまいました。

尾崎さん曰く「この曲が一番たいへん」とのこと。アンサンブルではさっきのP練はなんだったの…と思うほど忘れて
ました。でも今日の練習で少しは身体が覚えたかなと、練習にきてよかったというのが一番の感想です。

歌詞の意味を考えて歌えるようになるには長い道のりですが、練習あるのみ！頑張りましょう。

Alto H.I.

次回練習のご案内

4月28日 土曜日 13:00～
文京福祉センター 江戸川橋 文京区小日向2-16-15
合同ステージのみ / P練あり
(「帆を上げよ、」第3曲「帆を上げよ、高く」)
ピアノ 巨瀬氏に変更です

学生時代の文京福祉センターと場所
が移転していますのでご注意ください

4階 文京福祉センター江戸川橋



2018.4.24 法政大学アカデミー合唱団OB会
22期 W